

全国 3000 万署名・推進ニュース NO. 12

発行日:2006年10月4日 発行:全教・日高教・教組共闘

ー香川ー 教基法と30人学級で全県キャラバン

「香川の教育をよくする県民会議」は、9月25、26日の両日、
①少人数学級の早期実現を求める意見書 ②教育基本法を変えず、
守り生かすことを求める意見書 の二つの意見書を、地方自治法第
99条の規定にもとづいて、国に提出するよう、県内の8つの全市
と香川県の議会と教育委員会にむけた「全県キャラバン」を行いま
した。参加団体は、香教組、香川高教組、香川私教連、県労連、新
婦人の会、退職教職員、全教。そして、地元の日本共産党の市議会
議員が参加しました。



日	要請先
二 五 日	東かがわ市
	さぬき市
	高松市
	香川県 坂出市
二 六 日	観音寺市
	三豊市
	善通寺市
	丸亀市

今回の議会と教育委員会の要請の中で、次のこ
とが明らかになりました。

さぬき市議会議長への要請

第一に、多くの議長や教育長が「教育を充実させないと、国が滅びてしまう」「格差社
会が広がっているが、義務教育の機会均等は守っていかなければならない」と、文科省の施策
に疑問を持ち、今日の教育を何とかしなければならぬと思っていることでした。たとえ
ば、ある市の教育次長は、文科省が概算要求に盛り込んだ「放課後子ども教室推進事業」
について、「アドバルーンをあげて、パフォーマンスするだけでは困る」と批判されまし
た。また、安倍首相が掲げる「教育バウチャー制度」について、「地方では学校選択ど
ころではない。どこに照準をあてた施策を行うのか考えるべき」、さらに「中央中心。東京
での教育行政ではなく、地方も考えた施策をすすめてほしい」との声も多くありました。

第二に、市町合併が小・中学校の統廃合につながり、地元から学校が消えてしまうこと
に対する強い不安を持っていることでした。学校の統廃合問題は、ほとんどの市で話題となり、地方の大きな課
題であることが改めて明らかになりました。さらに、全県で35校しかない高校の統廃合も進められており、高
校の統廃合問題についても懇談が行われました。

第三に、今年度中学校の該当校が「少人数指導」か「少人数学級」を選択できるようになり、東かがわ市や善
通寺市の教育長は、「ひとつの学校は少人数学級を選択し、もうひとつの学校は少人数指導を選択した。学校の
意向を尊重した」と語っていました。また、坂出市などでは40人いっぱいの学級があり、参加した組合員から
は改善を求める切実な訴える場面もありましたが、多くの市では「人口が減り、少子化でほとんどが30人前後
の学級」との回答でした。そして、多くの市で議長や教育長と一致したことは、「義務教育については、国の責
任で行うべきである」、「国の責任で少人数学級を実施することが必要だ」ということでした。



県教育委員会への要請

「愛国心通知表」見直しを要請!

第四は、教育基本法問題では、「様々なご意見もあり、議事運営委員
会で検討し、対応する」との回答が多くありました。また、「愛国心通
知表」をいまだに使用している高松市への要請では、見直しを行うよう
強い要請が行われました。高松市教委は「校長の判断で作成している。
学習指導要領の表現にもとづいて作成しており、愛国心そのものを評価
しているものではない」と回答しました。また、県教育委員会への要請
の際にも、適正に指導するよう、申し入れました。

うどんを食べながら、奮闘した二日間

両日も朝8時に出発し、25日の夜には観音寺市で地元の教職員との交流会が開催されるなど、ハードな
全県キャラバンでしたが、それぞれの市で地元の教職員、退職教職員、議員が参加してくださり、丸亀市では
十数名での要請となりました。途中で食べたうどんのように、はごたえのある要請でした。